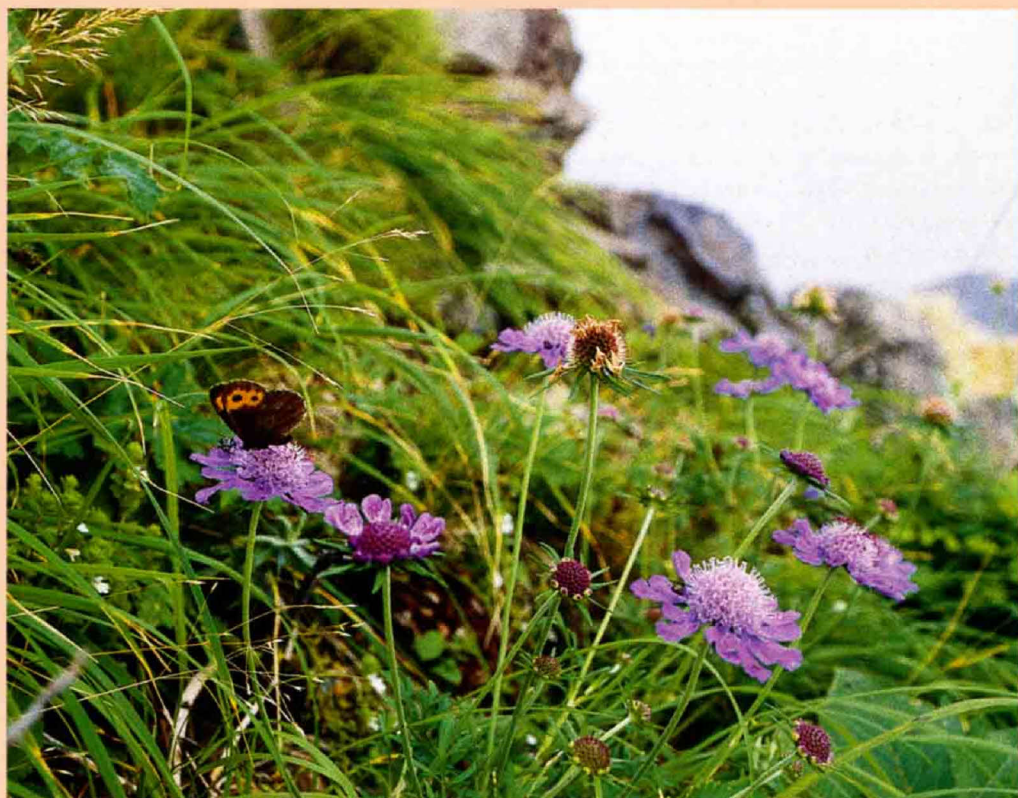


白山の自然誌 19

白山の蝶



1999年3月

石川県白山自然保護センター

はじめに

石川県に生息している蝶の種類は、現在のところ110種です。それでは白山地域には何種類の蝶がみられるのでしょうか？

ここでは白山地域を広く解釈して、標高2000mを越える高山帯から低山帯の里山までを含めて考えてみましょう。

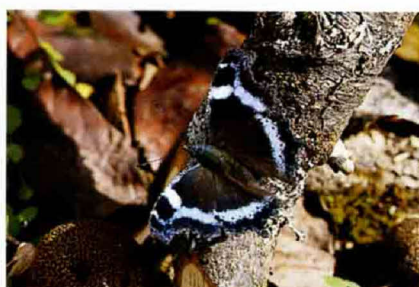
この地域には白山のお花畑に生息し、高山蝶と呼ばれるベニヒカゲやクモマベニヒカゲが、また、あなたの家のまわりでもよくみられるモンシロチョウやアゲハチョウもいます。それらの種類を合計すると、およそ100種類になります。従って、県内の大部分の蝶が白山地域でみることができるのです。

紙面の都合で全部の種類は紹介できませんが、ここではその中から高山帯特有の種類、特徴的な分布をする種類、珍しい習性の種類、山道でよく見ることができる種類などを中心に紹介したいと思います。

さあ、どんな蝶に出会えるのでしょうか。まずは、山に出かけてみましょう。



ツマキチョウ（オス）



ルリタテハ

本誌は石川むしの会・百万石蝶談会会員の竹谷宏二氏と松井正人氏の全面的な協力によって作成されました。

両氏に厚くお礼申し上げます。

石川県白山自然保護センター 所長 詠 利明

表紙／ベニヒカゲ、裏表紙／クジャクチョウ

も く じ

白山の蝶／プロフィール	2
高山帯の蝶／ベニヒカゲ、クモマベニヒカゲ	4
ダケカンバで集団生活／キベリタテハ	6
国際的な美人／クジャクチョウ	7
ブナの森に舞う渡り蝶／アサギマダラ	8
ブナ林の主演／フジミドリシジミ	9
森の宝石／ゼフィルス	10
蝶の名前を覚えよう	12
蝶の1年	13
アリの巣の居候／ゴマシジミ	14
けわしいV字谷に生きる／アサマシジミ	15
氷河時代の生き残り／ウスバシロチョウ	16
水たまりに集う貴婦人／ミヤマカラスアゲハ	17
白山麓の代表選手たち	18
蝶の食べ物	20
おわりに	21

(本紙に掲載した写真はすべて白山およびその周辺で撮影したものです。)

白山の蝶／プロフィール

白山地域の蝶を標高の高いところから低い方へと順を追って説明しましょう。

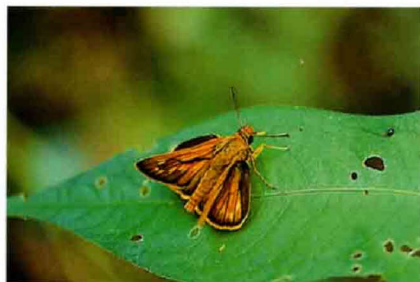
- 高山帯～亜高山帯のお花畑ではベニヒカゲ、クモマベニヒカゲがみられます。時折アサギマダラが稜線を越えていくのも観察できるでしょう。また、下方の樹林帯から飛んできたクジャクチョウがコバイケイソウやミヤマアキノキリンソウなどの高山植物で吸蜜していることもあります。
- やや下った落葉広葉樹林帯は、蝶の種類が最も豊富なところですが、ブナ林ではこの木を食樹とするフジミドリシジミが青色の羽を輝かせてブナの梢を飛んでいます。高山、亜高山帯でみられたクジャクチョウはこの地域が生まれ故郷です。山の奥深くまで延びた林道沿いの路上にはキベリタテハが羽を休めています。
- 登山道のササ原ではヒメキマダラヒカゲやクロヒカゲが人なつっこいしぐさで近づいてきます。休憩のついでにちょっと樹林帯に足を踏み入れてみましょう。運の良い人はアサギマダラの乱舞に出会えるかもしれません。
- ミズナラを中心とした落葉広葉樹林では、森の宝石に例えられ、「ゼフィルス」の愛称で知られるミドリシジミの仲間みられます。この仲間は県内に17種が記録されていますが、白山地域ではこれらのすべての種類をみることができます。
- 溪谷沿いのイワオウギやナンテンハギが生える草地にはアサマシジミがみられます。また、カライトソウの生える露岩地ではゴマシジミがみられます。
- 林道沿いの崖ではツマジロウラジャノメがゆるやかに舞っています。路上ではシータテハやホシミスジ、コキマダラセセリが足もとから飛び立ちます。トチの大木が生える溪谷では渋い青色の羽のスギタニルシジミがせわしく飛んでいます。
- 落葉広葉樹林から低山地にかけての道路では、わき水の出ているところや湿った場所でミヤマカラスアゲハが一心に吸水しており、ときどきテングチョウやサカハチチョウ、ルリタテハが仲間入りします。
- さらに低山地の林縁に沿った草地では、まず、早春の蝶、ツマキチョウが姿をあらわします。次いで透明なベールをまとったウスバシロチョウが道端のキンボウゲなどの花を訪れています。スジボソヤマキチョウやヒヨウモンチョウの仲間もこのあたりで良くみられます。



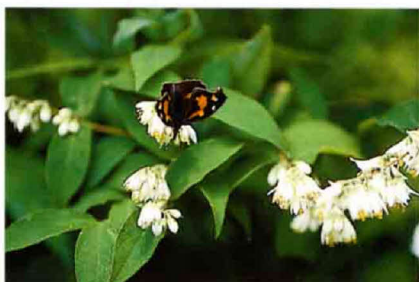
ベニヒカゲが舞いクジャクチョウが訪れる高山帯

以上、白山地域で見られる主要な種類を挙げてきましたが、この中でベニヒカゲ、クモマベニヒカゲ、アサマシジミ、キベリタテハ、クジャクチョウの5種はわが国の分布上の西限となっており、白山以西には生息していません。白山を代表する蝶といえるでしょう。

それでは、これから特徴的な種類を紹介していきましょう。



コキマダラセセリ



テングチョウ

高山帯の蝶／ベニヒカゲ、クモマベニヒカゲ

白山の高山帯には、厳しい自然条件の高山にしか住めない「高山蝶」と呼ばれるベニヒカゲとクモマベニヒカゲが生息しています。この2種は外見的な形態や成虫（蝶の姿）の習性は非常に似ていますが、越冬の様子などはかなり違ってきます。

大きさはどちらもモンシロチョウより一回り小さく、こげ茶色の羽にほんのりと口紅をつけたようなオレンジ色の斑紋があります。晴れたお花畑で黒っぽい蝶がチラチラ飛んでいたならこの種類と思って間違いないでしょう。

陽が当たっているときは活発に活動して各種の高山植物で吸蜜します。天候や気温の変化に敏感で、霧がかかったり、温度が下がるとすぐに姿を消してしまいます。

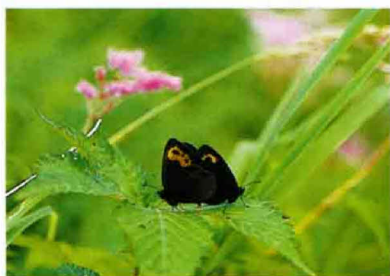
両種とも幼虫はイネ科のカリヤス類やカヤツリグサ科のスゲ類を食べます。

ベニヒカゲ

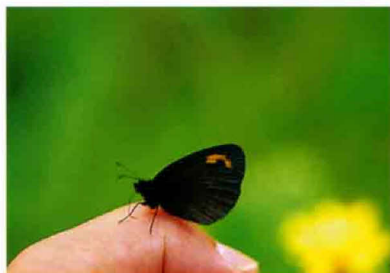
わが国の分布は、中部、東北の山岳地帯と北海道で、白山は分布の西限になります。幼虫で越冬し、翌年6～7月に蛹になります。白山では7月下旬から羽化し、8月中旬頃が最も数が多くなるようです。蜜を求めて各種の高山植物を訪れますが、特にマツムシソウの蜜が好物のよ



マツムシソウで吸蜜するベニヒカゲ



ベニヒカゲの交尾



人の汗を吸いにきたベニヒカゲ

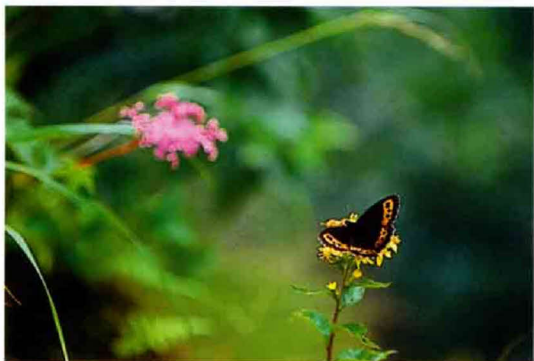
うです。また、登山中に人の腕やリュックの汗を吸いにくることも良くあります。

クモマベニヒカゲ

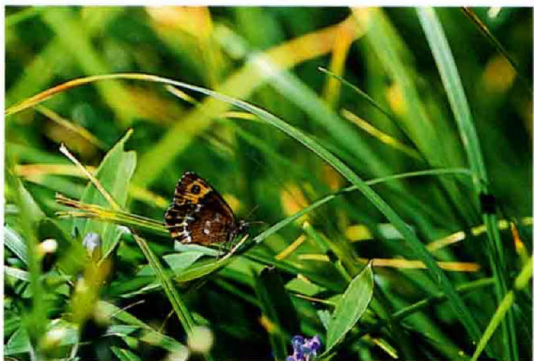
わが国の分布はベニヒカゲより狭く、中部山岳と北海道の大雪山に限られます。ベニヒカゲと同じく白山は分布の西限になります。ベニヒカゲに混じって飛んでいますが、その数はずっと少なくなります。ベニヒカゲとの違いは飛んでいるときは難しいですが、止まったときによく観察して下さい。クモマベニヒカゲのうしろ羽には写真のような赤色紋に沿った白帯があるので区別できます。厳しい高山の冬を1年目は卵で2年目は幼虫で越し、3年目にやっと成虫になります。成虫の発生時期はベニヒカゲより早く、白山では8月上旬が最盛期になるようです。多くの花で吸蜜しますが、特にミヤマアキノキリンソウやハクサンフウロを好みます。



ベニヒカゲ、クモマベニヒカゲが舞うお花畑



ミヤマアキノキリンソウで吸蜜するクモマベニヒカゲ



うしろ羽の白色帯が特徴／クモマベニヒカゲ

ダケカンバで集団生活／キベリタテハ



ダケカンバの枝で休息

蝶は、1カ所にだいたい1個から数個の卵を産みますが、キベリタテハは違います。成虫で冬を越した親は、6月頃になるとダケカンバの張り出した枝の先端付近に100～200個の卵を産みます。釈迦岳での観察では460個の卵が産まれていたこともありました。たくさん卵は一度にかえり、幼虫は集団で生活しながらダケカンバの葉を食べ

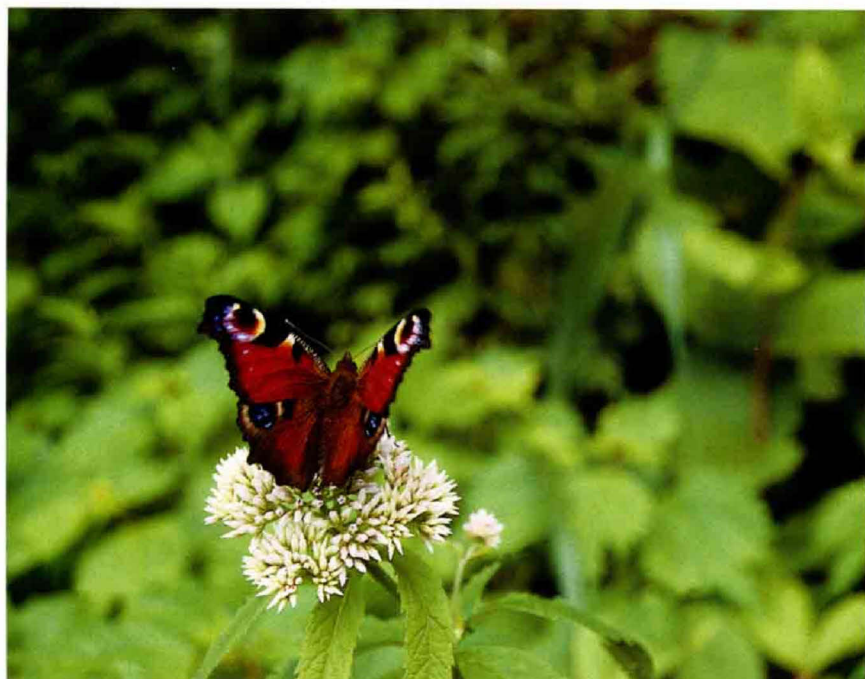


路上の日光浴が大好き

ます。ダケカンバの小枝はみるみるうちに丸坊主になり、食べつくした幼虫達は別の枝へと移ります。大きな幼虫になっても集団のままなので、小さな木では丸裸になることが有り、そうなると幼虫達は隣の木へ移ります。蛹になるときは、食べていた木から降りてどこかへ行ってしまいますが、この時は集団が崩れバラバラになります。

食欲満点の幼虫ですが、蛹からかえると黄色のふちどりに宝石のようなルリ色をちらした美しい姿に変身します。樹液やふん、湿地などに集まり、日当たりの良い路上や石の上に良くとまっています。

国際的な美人／クジャクチョウ



ヨツバヒヨドリで吸蜜

クジャクの羽の模様に似ているクジャクチョウは、この名前だけでもきれいな蝶を連想します。クジャクチョウと言うのは日本での名前で、これを和名といいます。国際的に使われる世界共通の名前を学名といい、クジャクチョウの学名は、イナチス イオ ゲイシャです。イオは、ギリシャ神話の主役ゼウスの恋人の名前で、ゲイシャは、世界に通じる日本美人の芸者です。

真夏には、室堂周辺やお花畑で見られますが、寒くなる前に山を降り、厳しい冬はふもとで越冬します。成虫で冬越ししているため、早春の暖かい日にはビックリするような低い場所、たとえば辰口町のような場所で飛んでいることがあります。

ブナの森に舞う渡り蝶／アサギマダラ



ヨツバヒヨドリで吸蜜

白山には広いブナ林が有ります。夏の間、このブナ林をフワリフワリとグライダーのように舞っているのがアサギマダラです。細い体の割に大きな羽が特徴で、体には白い斑点があります。

渡り鳥は皆さんも知っていると思いますが、アサギマダラは渡り蝶です。ツバメのように、暖かくなると南の方からやってきて、寒くなる前に南の方へ帰っていきます。どこからやって来るのかははっきりわかりませんが、石川県で飛んでいたアサギマダラが、鹿児島県の種子島で見つかった事があります。

この渡り蝶、渡り鳥とは少し違うところがあります。たとえばツバメは、親ツバメと子ツバメと一緒に南の方へ帰っていきますが、アサギマダラが帰るときには親は死んでいて、こちらで生まれた子供達だけで南へ飛んでいきます。

誰も教えてくれない道を、小さな体でどのように旅行するのでしょうか。アサギマダラは不思議な蝶です。

ブナ林の主役／フジミドリシジミ



ブナ林下のササで朝陽を浴びるオス

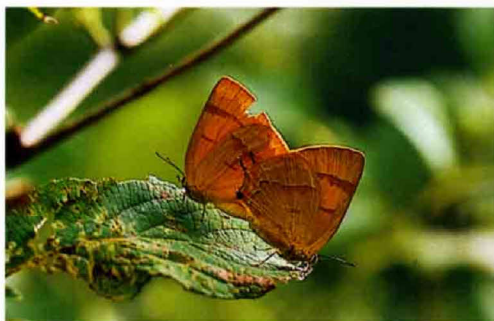
フジミドリシジミの幼虫は、ブナの柔らかい葉しか食べることができません。ブナの芽吹きと同時に卵がかえり、葉の成長に合わせて大きくなります。葉が固くなる頃に蛹になり、やがて成虫になります。ミドリシジミの仲間ではブナを食べるのは、フジミドリシジミだけです。ブナは芽吹きが早いので、その分フジミドリシジミは他のミドリシジミの仲間より、一足早く成虫になり飛び回ります。



うらの縞模様もシック

成虫は、ブナの木の高いところをチラチラと飛んでいるので、なかなか目に触れませんが、観察する良い方法があります。夜は低いところで休むらしく、早朝に出かけると、ブナ林の下草に止まっています。この方法も9時頃までで、これを過ぎると樹上へ飛んでいってしまいます。

森の宝石／ゼフィルス



ムモンアカシジミの交尾

成虫は他のゼフィルスよりやや遅れて、7月下旬から8月に山地のミズナラ林に局地的に発生します。幼虫は蝶としては珍しい半肉食性で、若い幼虫はアブラムシ、カイガラムシの分泌物とミズナラなどの若葉を食べ、成長するとアブラムシなどを捕えて食べます。



朝、葉上でなわばりを守る ジョウザンミドリシジミのオス

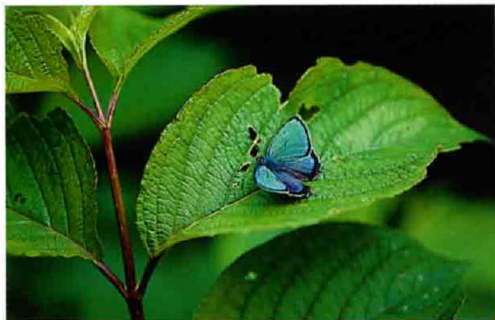
オスの羽の表は写真のような青緑色で、金属光沢があります。メスの羽は褐色であり目立ちません。オスは午前8時頃に活動し、枝先にとまり活発な占有行動をとります。



オニグルミ林に住む オナガシジミ

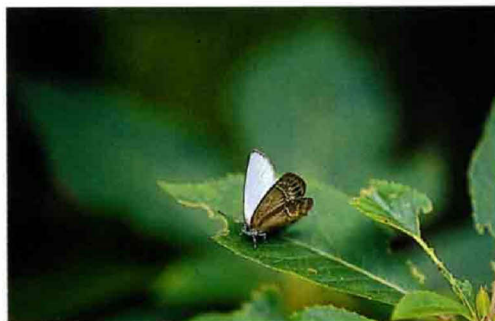
オス、メスともに羽のおもては地味な褐色ですが、うらはは写真のように白地に黒色の大小斑紋があり、しっとりとした美しさがあります。幼虫はオニグルミを食べます。

ミドリシジミの仲間は、一般に「ゼフィルス（そよ風の精）」という愛称で呼ばれています。成虫は、いずれも年1回の発生で、卵で冬を越します。羽の色は、橙、緑、青、紫など多彩で、宝石にたとえられる美しいグループです。白山地域の主として雑木林には17種類が住んでいます。



金緑色の羽を開いてなわばりを守る
メスアカミドリシジミ

オスの羽のおもては、金緑色に輝く金属光沢。メスの羽は黒褐色の地に大きな橙色の紋があり、名前の由来になっています。幼虫は山地のサクラ類を食べます。



オスの羽のおもては真珠色
ウラクロシジミ

オスは夕方に活動しますが、特に日没直前は多数の個体が乱れ飛び、まるで紙ふぶきのようにみえます。幼虫は早春の花として有名なマンサクを食べます。



羽のおもてはオス・メスともに紫色
ウラムスジシジミ

活動は主として夕方にみられます。昼間は不活発でほとんど下草に静止しています。メスはクリやノリウツギの花で吸蜜することもあります。幼虫はミズナラ、コナラ、クスギなどを食べます。

蝶の名前を覚えよう

蝶の名前は難しそうに思えますが、簡単な仕組みになっていて、すぐ覚えられます。まず、仲間分けによって語尾がだいたい決まります。

アゲハの仲間	〇〇アゲハ
シロチョウの仲間	〇〇シロチョウ、〇〇キチョウ
シジミチョウの仲間	〇〇シジミ
タテハチョウの仲間	〇〇ヒョウモン、〇〇ミスジ、〇〇タテハ
ジャノメチョウの仲間	〇〇ジャノメ、〇〇ヒカゲ
セセリチョウの仲間	〇〇セセリ

あとは、〇〇に入る言葉をおぼえるだけです。この言葉には、色彩、大きさ、羽の特徴、住んでいる場所等が有ります。

赤色	アカシジミ、アカタテハ、ベニシジミ、ベニヒカゲ
黄色	キアゲハ、キチョウ、キタテハ、キバネセセリ
黒色	クロアゲハ、クロシジミ、クロヒカゲ
緑色	ミドリシジミ、ミドリヒョウモン、アオバセセリ
大(オオ)	オオミスジ、オオヒカゲ、オオミドリシジミ
小(コ)	コミスジ、コジャノメ、コチャバネセセリ、コキマダラセセリ
小(ヒメ)	ヒメシジミ、ヒメジャノメ、ヒメキマダラセセリ
羽の特徴	オナガアゲハ、モンシロチョウ、オナガシジミ、シータテハ
住む場所	ミヤマシジミ、ミヤマセセリ、サトキマダラヒカゲ

この仕組みが基本で、あとは基本を組み合わせたたり、ちょっと変化させたりするだけです。仕組みがわかると、名前の謎解きをしたくなりませんか。クモバネヒカゲは、雲間(高山)+紅(赤色)+ヒカゲ(ジャノメチョウの仲間)となりますが、それでは、ミヤマチャバネセセリは、どうなるでしょうか。

(答えは14ページ)

蝶の1年

皆さんも知っているように、蝶は完全変態の昆虫です。卵が生まれ、幼虫になり、蛹になって成虫（蝶の姿）になります。成虫になるまでのスピードは、種類によってそれぞれ違い、1ヶ月の蝶もいれば1年の蝶もいます。白山の高山帯には、2年かかる蝶もいるのです。

1年の中で最も過酷な季節は冬ですが、蝶はどのように冬を乗り切っているのでしょうか。冬越しの方法は、卵、幼虫、蛹、成虫と、種類によって決まった方法があります。表は、白山周辺に住んでいる蝶の生活史です。

蝶の名前	春	夏	秋	冬
ウスバシロチョウ	卵 幼虫 蛹 成虫		卵	
アサマシジミ				
フジドリシジミ				
ホシミスジ				
ゴマシジミ				
ベニヒカゲ				
ツマキチョウ				
ミヤマカラスアゲハ				
モンシロチョウ				
スジボソヤマキチョウ				
キベリタテハ				
シータテハ				
クモマベニヒカゲ(1年目)				
クモマベニヒカゲ(2年目)				

一生の中で、みなさんの目に触れる成虫となって飛んでいるのは、ほんのひととき、蝶もただのんきに飛んでいるだけでは無いのです。

いそうろう アリの巣の居候／ゴマシジミ



カライトソウの花穂に産卵するメス

白山にも土や植物で覆われていない、岩がむき出しになっているところがあります。こんな場所にはカライトソウがあり、ゴマシジミが住んでいます。

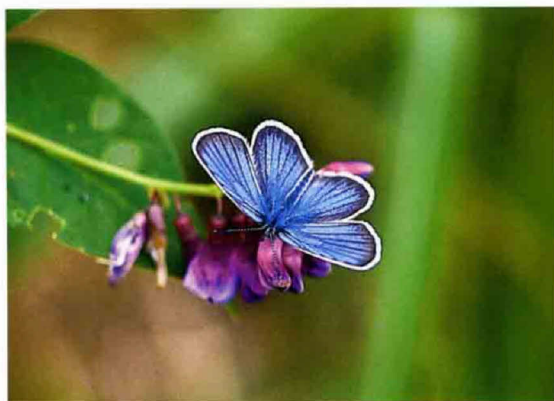
ゴマシジミはカライトソウの花穂に卵を産み、幼虫はこれを食べ大きくなります。大きくなった幼虫は、クシケアリというアリによって、アリの巣に運び込まれ居候となります。アリは幼虫が出す液をなめ、幼虫はアリの幼虫を食べながら成長します。厳しい冬をアリの巣で越した幼虫は、巣の中で蛹になり羽化しますが、アリの巣は狭いので、羽が伸びきらないうちに巣からはい出して羽を伸ばします。

アリは自分たちの子供が食べられてしまうのに、なぜ幼虫を巣の中に運び込むのでしょうか。幼虫が出す液は、アリを惑わす麻薬のようなものかもしれません。

(12ページの答え：深山＋茶＋羽＋セセリ)

けわしいV字谷に生きる／アサマシジミ

白山周辺の河川は、けわしいV字谷になっています。こんなところでも日当たりの良い河原やその周辺には、アサマシジミが住んでいます。中宮温泉付近の河原には、ナンテンハギが生えていて、アサマシジミの幼虫が上品に食べています。時期は5月の終わり頃から6月のはじめ頃で、ちょうど山菜採りの人たちがたくさんいる頃です。ある時、幼虫観察に出かけると、あっちでもこっちでも、アサマシジミが食べるナンテンハギの先端部分がなくなっていました。不思議に思っていたところ、この先端部分は人間も食べるようで、山菜採りの人たちが摘んだ事がわかりました。



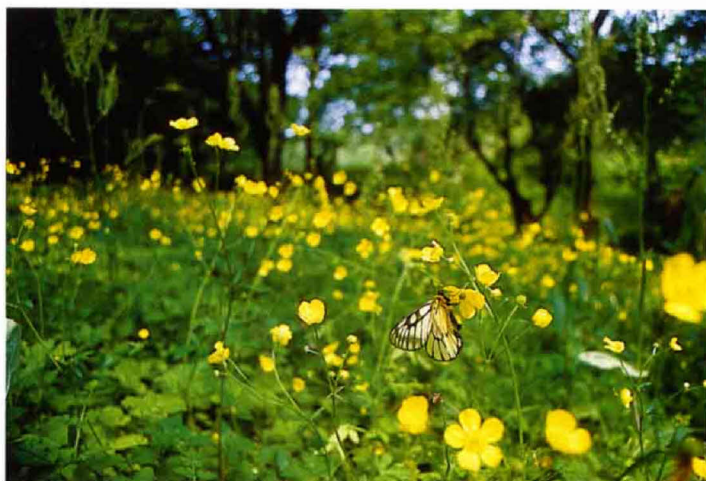
食草のナンテンハギで吸蜜するオス



食草のナンテンハギで吸蜜するメス

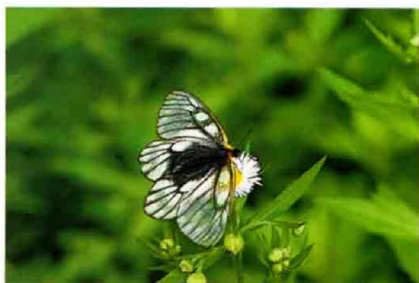
V字谷は、ちょっと大雨が降ると河原いっぱい水が流れたり、石や岩が水に流されて転がり、河原の形が変わってしまうことがあります。このようにアサマシジミの住む河原はとても不安定ですが、どこに隠れているのか毎年同じ頃になると、河原にはアサマシジミが飛んでいます。

氷河時代の生き残り／ウスバシロチョウ



開けた草地のキンポウゲで吸蜜

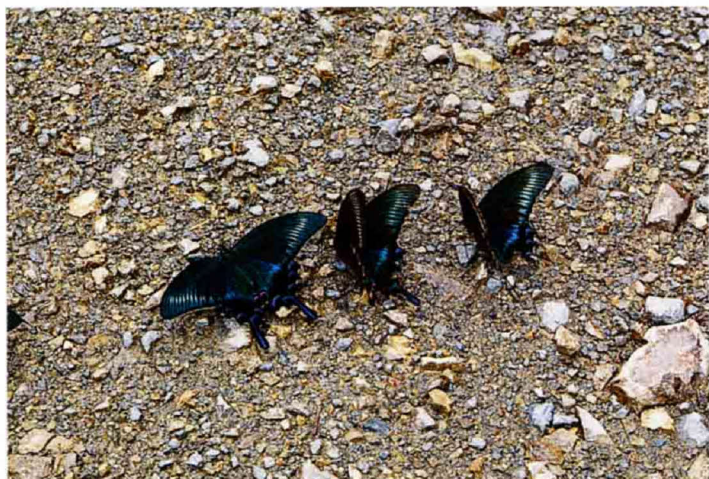
花嫁のベールを思わせる透明な羽とゆったりした飛び方、そして、形はモンシロチョウ。しかし、れっきとしたアゲハチョウの仲間、氷河時代の生き残りとしても知られています。加賀地帯の山地に広く生息します。卵で越冬し、早春にふ化した幼虫はケシ科のムラサキケマンを食べ、太陽の日差しをいっぱい浴びて急速に成長し、蛹になります。



ヒメジョオンで吸蜜

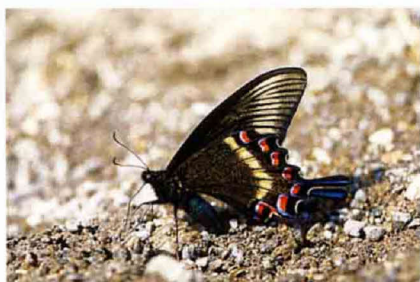
低山地では4月下旬～5月上旬に成虫が羽化します。標高が上がるに従って出現時期は遅れて、白山麓では5月中・下旬から6月中旬までみられます。年1回の発生で、樹林周辺の開けた草地上を非常にゆるやかに飛びます。各種の花を訪れますが、山村の畑ではネギの花にもよく集まります。新緑の5月を代表する蝶と言ってもよいでしょう。

つど 水たまりに集う貴婦人／ミヤマカラスアゲハ



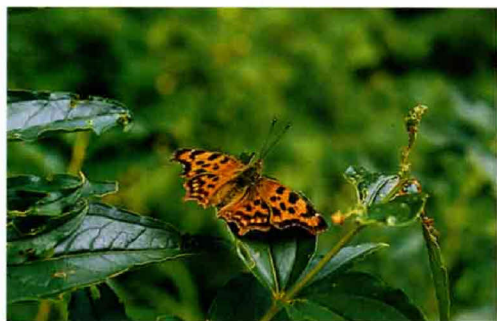
路上の水たまりで吸水

主として落葉広葉樹林帯に生息する大型のアゲハチョウです。白山地域では深山の溪谷沿いの林道を歩いていると、よく集団で吸水しているのに出会うことがあります。不思議なことに吸水するのは全部オスなのです。成虫は年2回の発生で、第1回目の成虫の出現は5月で春型と呼んでいます。第2回目の夏型は6月下旬から7月に出現します。春型は夏型よりひとまわり小さいのですが、黒地に青緑色の粉をまぶしたような羽はひときわ鮮やかで美しいのです。春はツツジ類で、夏はクサギなどの花でよく蜜を吸います。幼虫はミカン科のカラスザンショウ、キハダなどを食べ、蛹で越冬します。



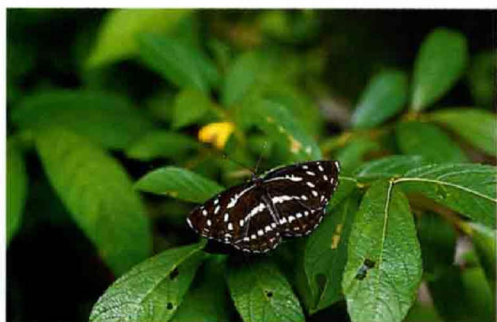
うしろ羽の白帯が特徴

白山麓の代表選手たち



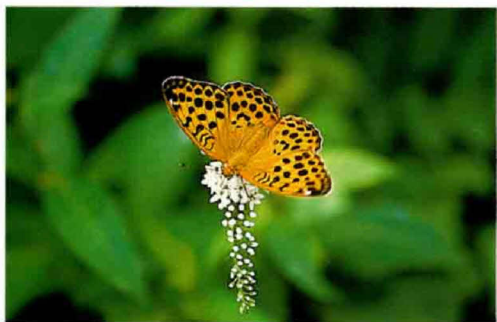
うしろ羽のうらにC字紋がある
シータテハ

秋に発生するものは、羽の縁の凹凸が著しくなります。飛び方は敏翔で、樹液や汚物に集まる他、路上でもよく吸水します。



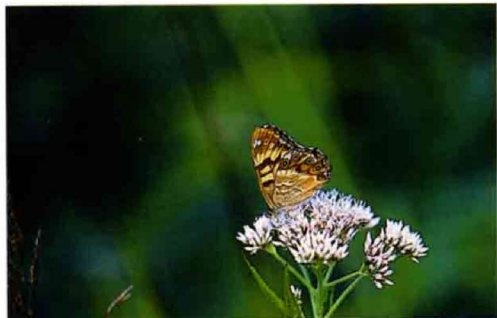
山村の集落周辺に多い
オオミスジ

成虫は年1回、梅雨期の6月中旬に出現します。まえ羽の先端に白い斑紋があるのが特徴です。幼虫はウメ、アンズ、スモモの葉を食べるので、これらの樹が生えている、山間地の集落のまわりでよくみられます。



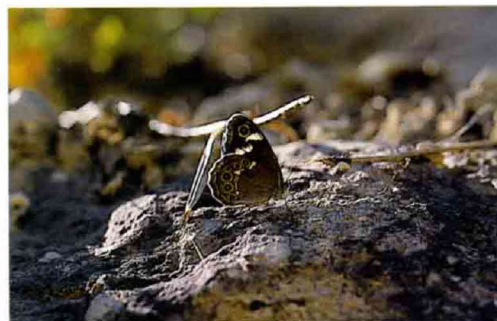
オカトラノオで吸蜜する
ウラギンスジヒョウモン

低山地に広く生息します。年1回の発生で6月頃から現れ、夏は休眠して姿を消しますが、9月から再び活動します。オカトラノオ、ヒョドリバナなどでよく吸蜜します。幼虫はスレミ類を食べます。



樹林帯のササ原に多い
ヒメキマダラヒカゲ

年1回の発生で、成虫は6月頃から9月頃まで姿を見せます。食草のクマザサが生える樹林帯が大好きです。活発に飛び、各種の花で吸蜜しますが、樹液や動物のふんにもよく集まります。



林道沿いの岩場が大好きな
ツマジロウラジャノメ

まえ羽の白斑が特徴です。成虫は6月から9月までみられますが、秋期の方が発生数が多くなります。崖地や岩場をゆっくり飛びますが、人の気配には敏感で近づきにくい蝶です。



オトコエシで吸蜜する
スジボンヤマキチョウ

羽の形は先端がとがっており、他の蝶にはないオシャレなふんいきをもっています。低山地には広く分布します。年1回の発生で、成虫で冬を越します。6月中旬頃から姿をみせ、アザミ類やオカトラノオでよく吸蜜します。

蝶の食べ物

蝶の子供は、なかなかの偏食です。ほとんどは植物を食べますが、蝶の種類によって食べられるものは限られていて、植物なら何でも良いわけではありません。極端な話をするとも100種の蝶が生活するには、100種の植物が必要になり、植物の種類が多い程、蝶の種類も多くなります。白山は高い山なので、低山から高山にかけて植物の種類が豊富で、蝶の種類も豊富です。

石川県内で、白山にしか住めない蝶がいるのは、白山にしかない植物があるからとも言えます。白山には白山の植物群があり、白山の蝶達がいるのです。

蝶の名前	食べ物の名前
ウスバシロチョウ	ムラサキケマン、エンゴサクの仲間
ミヤマカラスアゲハ	キハダ、カラスザンショウ
スジボソヤマキチョウ	クロウメモドキ
オナガシジミ	オニグルミ
アイノミドリシジミ	ミズナラ
メスアカミドリシジミ	サクラの仲間
フジミドリシジミ	ブナ
カラスシジミ	オヒョウ
スギタニルリシジミ	トチノキ
アサマシジミ	ナンテンハギ、イワオウギ
アサギマダラ	オオカモメヅル、イケマ
ヒョウモンチョウの仲間	スマレの仲間
ミスジチョウ	カエデの仲間
ホシミスジ	シモツケ
キベリタテハ	ダケカンバ
オオムラサキ	エノキ、エゾエノキ
ヒメキマダラヒカゲ	ササの仲間
キバネセセリ	ハリギリ

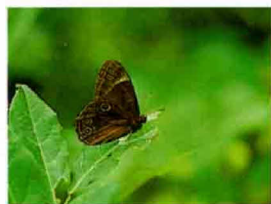
おわりに

白山地域には高山から低山まで、さまざまな自然環境のなかで約100種もの多くの蝶がくらしています。ここでは、それらの中から特徴的な種類を紹介してきましたが、それは全体のごく一部にしか過ぎません。

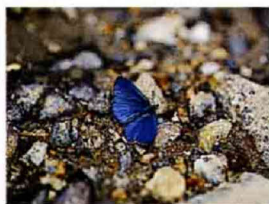
一口に蝶と言ってもその形、色彩、大きさはもちろん、発生する時期、回数も違います。また、越冬の形態や幼虫が食べる植物も多様なものがあります。

その気になって山道を歩けば、もっともっといろんな種類に会えると思います。これらの観察を通して、大自然のなかで息づく宝石のように美しい蝶たちの神秘的な世界を覗いて下さい。きっと胸のときめきと感動が実感できることでしょう。

この小冊子を白山や周辺の山々に登るとき、また、里山のハイキングのときに開いて下さい。探していた種類が見つければ大成功です。そして、少しでも蝶とそれを取り巻く大自然の不思議な営みに興味をもってもらえればうれしく思います。



クロヒカゲ



スギタニルリシジミ



サカハチチョウ(春型)

白山の自然誌 19

白山の蝶

発行日 平成11年3月25日

文・構成 竹谷 宏二・松井 正人

写真 竹谷 宏二

発行 石川県白山自然保護センター

石川県石川郡吉野谷村字木滑ヌ4

Tel. 07619-5-5321 Fax. 07619-5-5323

印刷 (株)橋本確文堂

本誌は再生紙を使用しています

